

## 第2回土浦市立幼稚園，小学校及び中学校適正配置等検討委員会 会議録

1. 会議名：第2回土浦市立幼稚園，小学校及び中学校適正配置等検討委員会
2. 日 時：平成21年11月10日(火) 午後1時30分～3時40分
3. 場 所：教育委員会 2階大会議室
4. 出席者：  
(委 員)水本徳明・完賀浩光・飯島真理子(代理)・中島洋一・池田和男・沖田幸代・大塚 猛・笹本恒久・笠原美智子・坂本喜久江・和田士郎・岡元孝子・近藤修・中井川 功・川島一男・古徳洋一  
(事務局)富永教育長・長峰教育次長・細谷参事・石井課長・平塚課長補佐・塚本係長・関口主幹
5. 公開非公開の別：公開
6. 傍聴人の数：5人
7. 開会のあいさつ  
(事務局) 開会のことば  
(委員長) 皆さんこんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。この委員会も2回目になりまして、本格的な審議に入りたいと思います。  
前回、お話申し上げましたように、委員の皆さんからたくさんご意見を出していただきながら進めたいと思います。土浦の子どもたちにとって、より良い教育を進めていくという観点から、皆さんのお知恵を拝借しながら進めたいと思いますので、本日もどうぞよろしく願いいたします。
8. 報告事項  
(事務局) 第1回委員会のまとめ  
第1回委員会協議事項の要旨を説明  
(委員長) 会議録の公開については、詳細なものを、委員名を匿名にしてホームページ等で公開する旨を話す  
(委員一同) 異議なし
9. 協議事項  
(事務局) 基本方針策定の考え方について説明

(委員一同) 異議なし

(事務局) 学校規模と教育環境等について資料を用いて説明

(委員長) 8ページの楽しく学ぶ何とかがづくりは…

(事務局) 申し訳ありません。8ページの(3)は「楽しく学ぶづくり」とありますが「学級」の誤りです。「楽しく学ぶ学級、学級づくりです」でお願いしたいと思えます。申し訳ありませんでした。

(委員長) あと、これは県の資料そのままだということですが、10ページのところで国配置基準の一番上の表の下の※印の最初の方ですけど、学級数は国の基準によるというふうに書いてありますけど、これは正確には国の標準による、学級編制の基準は都道府県の教育委員会が決めるもの、国はその標準を決めているということになっておりますので、正確には国の標準ということになります。

今、ご説明いただいた内容につきまして、ご質問やご意見出していただきたいと思えます。

学校の規模に伴って、学校の様子もいろいろ変わってくるわけです。そのことにはさまざまな制度も係わってきますので、その辺りのことを十分ご理解していただくことも大事だと思いますので、何でも結構ですからご質問していただけたらと思えます。

(委員) 「学校規模と教育環境について」の中で、特に(2)「豊かな人間性やたくましさを育成する視点から」ということなのですが、適正な規模みたいなことを我々は検討するわけですけど、特にこの中で人数が多い方がいいとか、大きなことはいいことだ…的な誘導語のような形がとられていて、これが果たしてその適正といったものを見るときに、資料としていかがなものか?という気がいたしました。その辺もちょっと内容的には平たいと思えますか…客観的な部分も必要ではないかなと。最初にそっちの方がいいんだよと誘導しているような…そんな感じを受けました。その中で、どこの文章をもってきたのか、それともお作りになったのか分かりませんが、②の中で「クラス替えによる問題解決がすることができるように、することが必要である」とか、その後の③も「友人同士やクラス間の対抗が可能となり…」、何をすると一体可能になるか?といった部分が抜けているような感じもしますので、文章的な部分も精査が必要なのではないかなといった気がしました。以上です。

(委員長) はい。このことについて、事務局の方から何かご説明いただけますか。

(事務局) ありがとうございます。資料等につきまして、人数が多ければ多いほどというこの件、また、客観的な資料をとというご意見でしたけれども、確かにこれから委員の皆さまに十分検討していただきまして、協議をしていただきまして、何名が何クラスかというのは最終的には結論が出てくるのかと思えますが、今現在のところでは、客観的にといますか、我々が普段

学校教育に係わっている状況、それから文科省とか県の教育委員会等の資料等を踏まえて、このような形にまとめさせていただいたのですが、はっきりと何人というのは非常に難しい部分であるかとは思いますが、これからぜひ検討していただきたいと思います。

ただ、人数が少ない、今日校長先生がいらっしゃいますけども人数の小規模的なところと中規模、適正規模、大規模といろいろ兼ね合い等はあるかとは思いますが、それについても十分ご意見を出していただいて、適正規模ということを含体的に出していただければという考えであります。その考える視点として、資料を用意させていただきましたので、よろしく願いいたします。

それから6ページの②番、「クラス替えによる問題解決はすることですること」とありますが、すみませんカットをお願いしたいと思います。「クラス替えによる問題解決ができるようにすることが必要である」ということで、「すること」というのをカットしていただければと思います。「クラス替えによる問題解決ができるようにすることが必要である」というふうに訂正をお願いしたいと思います。

(委員長) その下の③についてはいかがですか? 「友人同士やクラス間の対抗が可能になる」というのは、どのようにして? というようなことがないと、これだけでは…。

(委員) 全体的にそうなのです。そういうところがあるんです。では何をするとギャップを感じることなく大きな集団に溶け込めるのか? 何をするとチーム活動が制限されないようになるのか? その辺のところをお願いしたい。おそらく、言いたいことはきっと、人数がある程度多くないと…みたいなことをここに入れられれば、あとは複数のクラスになる…そういったことを言いたいのですが、それをここに書いてしまうと結論ありきみたいな話になってしまって、自分たちも大変なことだと思うのですが、ちょっと文章としては、少し足りないかなといったような気がいたしております。以上です。

(委員長) 6ページの大きな2番ですね、土浦市の教育目標からして、学校規模がある程度大きいとこういうメリットがある、というようなことが書かれているわけです。それについてのご質問やご意見ということになると思いますが、いかがでしょうか。他の観点からもあるかと思いますが、特にこの6ページの大きな2番について、ご意見ご質問を出していただければと思います。

(委員) この1番の「豊かな人間性」とあるんですが、学校において豊かな人間性が必ずしも身に着くとかいうのじゃなくて、結局、親とかもって自分なんかより子どもの視点に対して、上のものに対しての愛情とか、いろんなものが入ってくると思うので、必ずしも学校に来て豊かな人間性が着くかと

いうと、そういうことはないような気がします。

あと、先ほどの2番のクラス替えと友人同士やクラス間の対抗とありますが、確かに人数の少ないところでは、少ないなりの努力をしながら今まで現状でやっているとは思いますが、ただ、人数が少ないので範囲が決まると言うんです。あとは他のところとの交流によってかなり身に着くということとは確かにあると思います。

あともう一つ、2番の(1)「確かな学力」とありますが、確かに人数が少ないと学校の先生の目が届くので、学力的には人数が多いより少ない方が指導される側にとっては身に付くものが多いと思われれます。以上です。

(委員長) ありがとうございます。学校の規模についてどう考えるかというご意見でした。他にいかがでしょう。

(委員) 基本的なところを見ていきたいと思えます。

「生きる力」、一つ目が「確かな学力」、二つ目が「豊かな人間性」、「健康体力」というふうに3つに打ち出してあるわけですね。ところがこの次にきておられるのが、「本市の教育目標達成のために」ということで「確かな学力」というのは出ておられますが、次の2番目は「豊かな人間性」や「たくましさ」をまとめてしまっているのです。「生きる力」を3つに分けたなら、当然3つに分けるべきではないかなと思えます。

それから文章表現でいろいろありますけど、7ページの「体育や部活動等のチーム活動が制限されず、能力の開発・発揮の場所を与えることができるようにすることが大切」…何の意味だか分からないんですけど。要するに、体育とか部活動のチーム活動が制限されないというところ、もう少しこの文章が、どうなんでしょう(分かりやすくなりますか?)。

また6番目のところ、「運動会等」で置き換えればいいと思えますけど。先日、7日に体育祭をやりました。そのときに私が「運動会」って言ったら、いや中学校では「体育祭」だよというようなことがありましたので、おそらくこの「等」は中学校での体育祭も含まれているのかなという感じがしました。

あといくつかありますけども、皆さんがお話された通りの同じようなことでございます。

(委員長) 今、具体的に7ページの⑤についてご指摘がありましたけど、このことについて事務局の方、いかがでございますか。

(事務局) はい、7ページなのですが、今ご質問がありましたけれども、例えば⑤の「体育や部活動等のチーム活動が制限されず」というふうに書いてありますが、やはり人数の多いところと少ないところとは、それぞれ子どもたちのやりたいことがものすごくいろいろあると思うんですよね。ただ(小規模校だと)人数の制限といいますか、枠が決まっていて、なかなか自分の思い通りに部活に入れない、運動関係の部活に入れない、ということが出て

くる可能性のことだと思えます。

一生懸命やりたいという思いがあっても、学校の方で人数がいないからその部活動が成立しないということ。そういう意味で、能力の開発・発揮の場所を十分与えること、幅広く子どもたちが選択できるような人数・生徒数がいた方が望ましいのではないかと、という点から書かせていただきました。

言葉が足りなくて本当に申し訳ありませんでした。

(委員長) 委員さん、今の説明で何か？

(委員) 今のお話ですと、部活動等ですけども、体育についてはどうお考えでしょうか。

(事務局) 体育の活動においても、例えば球技等の種目、サッカーでしたら11名とありますけど、相手チームの数も入ってきますので、それだけの人数がある程度確保されるということがやっぱり子供たちにとってはいろんな体育的な種目に挑戦できる、あるいは球技活動ができるということになるのではないかと考えております。

(委員) 大きい小さいという話から、これからどうするかということなんだろうけど、もう少しみんなが理解するためには、小さい学校だとどういうメリットがあってどういうデメリットがあるのか、大きくしたらどういうメリット・デメリットがあるのか。それがやっぱり共通の理解。まだ皆さんからいろいろ(意見が)出るかとは思いますが、そのもの(共通理解)があって初めて今後のことをどうするか？という話になるのではないかと思うのがいかななものでしょう。

私もいろいろそういう現場にはいたのですが、なかなかそこまで、考える時期がなかった。それで終わっちゃった。やはりみんなが小さければ小さいメリットがある、大きければ大きいデメリットがあるんだといったように、みんなで同じものを理解し合った中で話をしていかないと、次にまとまっていけない気がするのです。

(委員長) はい、ここでの議論の仕方というようなことを含めたご意見ですけど、今のご意見に係わって何かないでしょうか。

(委員) 私もそう思います。

(委員長) 今日は、事務局の方から出していただいた考え方を叩き台にして、学校の規模と教育の在り方、学校の在り方についていろいろ論点を出していきたいと思うのです。それに基づいて事務局の方でも手直ししていただくことがあるかもしれないし、私たちもまた次回学校に視察に行くという話もありますので、私たちとしても小さいことのメリット・デメリット、大きいことのメリット・デメリットというのをどう考えるかと、その共通理解を今後図っていくという、その取り掛かりの議論を今日していけるかと思えます。そういう意味ではいろんな点からご意見を出していただいて、この

点も見るべきだった、こういう観点も大事だったそういうことをどんどん出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

(委員) この文章を読みますと、先ほども出ましたが、相対的に大規模に誘導していくような文章に私はなっているような気がします。前回、統廃合について結論ありきのことでも私はいいと、統廃合については賛成だと私はここで言ってしまったんです。ここにも書いてあるんですが、そう言っているので、中身的な問題もさることながら、この文章一つ一つを取り上げて云々というの、ちょっとこの場のニュアンスではないのではないかなと私は思います。

やはり委員さんが言われました通り、小さいことのメリット・デメリット、大きいことのメリット・デメリット、いろいろとあると言われましたけれど、それも一理あると思います。そこから何かをつかんでいって結論を持っていくのか、結論ありきでどういうふうにしていくのか。そこが一番の問題ではないかと私は考えます。

(委員長) いかがですか、今までのこういうご意見について。

(委員) 皆さんの意見を聞きましたが、国の機関である文科省から県へ降りてきて、今日の配置等いろいろのなものが入っているわけですが、言い方は悪いかももしれないですが、役所は上から押し付けられてやらざるを得ないのかな(という感じがします)。

結局、予算の問題だとかその他等々あるでしょうけど、あと実際今後のことも考えて下さっているのしょうけど、行政においてこういうものが多分降りてきているのだと思うのです。実際、行政側じゃなくして本当の意見であれば行政側はこういう形で行きたい訳ですから、先ほど委員の方が言われたように、小さい学校のメリット・デメリット、大きい学校のメリット・デメリット等を比較しながらやった方が結論は早く出るような気がします。行政側から持ち込んで始まったものなのですから。

(委員長) これは、前回からよく分からないような感じで来てる部分もあるのですが、今おっしゃられたように国・県からの降りてき方ですね、私もいろいろ事務局の方と話をする中でもどういふ考えをもって、どのような形で県から降りてきているのかということが、どうもはっきりしないような気がしているのですが、事務局としてはこの点いかがでしょうか。

(教育長) この前、第1回目のときに、公立小中学校の適正規模化についての指針というのを皆さん方に見ていただきました。これは明らかに、いわゆる県として現状の中で、例えば一つは複式学級が非常に増えつつある。複式学級とはつまり2つにまたがる学年を一人の先生が見るといふのを複式学級と言うわけですが、全県的・全国的に見てもそういう状況にあるというのが一つです。それから、特に小学校が小規模化、例えば10人未満の学級が非常に増えているということの中で、県としては望ましい学級規模の在り

方についての指針というのを出したわけです。非常に具体的にです。この前、皆さんにお配りした資料に県の指針が述べられているかと思えます。そこで学校の設置者である市町村としては、学校の適正規模化、望ましい学級規模というのは実際はあるようで無いんです。適正な学級規模は何だと言われても、それが理論上固まっているわけではないのです。

しかしながら、少なくともある程度の集団活動というのが学級の基本になっています。子供たち同士の学び合い、あるいは係わり合いとかそういう中でお互いに助けたり助けられたり、あるいはいろいろな友だちの意見を聞いたり、それを参考にして自分の意見を考えたり、そういう集団活動というのが少なくとも学校教育の基本となっているわけです。もし、それが必要でないというのであれば、相対マンツーマンの実務教育をやればいい。そうではなくて、集団の中でお互いに切磋琢磨し合ったり影響したり影響されたりということが学校教育の基本となっているということは、日本も世界も同じです。

では、どのくらいの規模がいいかということ、必ずしも明確に決まっているわけではないのです。国によっても違います。日本はいわゆる1学級40人という標準の児童数が決まっておりますが、ヨーロッパに行くと25人とか30人とかそういうふうにもございます。日本は45人が40人になって、今は流れ的に小規模35人学級がどうかということが民主党の中でも言われておりますけど、そういう動きもあります。

後で学校を見ていただきますが、そういうものを見ていく中で、どの程度の規模が一番適正なのか、県の指針ももちろんありますが、そういうのも本市にとってはそのままにしておけないという現状の中で、皆さまの意見を聞きながら土浦市としての指針を決めていきたい。ということでございますので、いろんなお考えを出していただくことがいいのではないかと思います。でも忘れてはならないのが、子どもにとってどういう条件の中で勉強をさせるのが一番いいのか、ということをつも頭の片隅において議論をしていただきたいというふうに思っております。

(委員長) ありがとうございます。いかがでしょうか。

(委員) 今、教育長からお話があった通り、皆さんの議論をいろいろ拝聴しております。前回のこの県の適正規模・教育指針というものを読んでいたのですが、やはり同じ茨城県という行政区内にあれば、やはりこれを全く無視するというわけにはいかないだろう。と同時に、ここには市町村独自でこれを踏まえて教育指針という問題を考えてくれと。設置者である市町村に歴史や地域との関わりを考慮しながら、主体的に判断してもらいたい、というこの情報が確かにございますが、やはり相対的な流れの中で、県の望ましい最低限の学級。それから事務局でお作りいただいて紹介していただいたこの教育目標を非常に感心して聞いていたところでございます。

実際、大きい学校がどうだとか、小さい学校がどうだということよりも教育長が最後に一言付け加えましたが、教育の場というのは今から学校に入れる、今から学校へ就学する者のニーズというようなものを、我々ちょっと年代が一段上になりましたが、PTAの役員さん等々もこの会には出ていただいておりますが、やはり学ぶ者のニーズというものも今から考えていかなければならない。

私もこの委員になりましてから、実は上大津西の方に近いので心境を聞きましたけど、小学校の人数が少ないと教育環境として好ましくないのではないかということから、学校区を変えて他の地域で入学させるというような例も一部聞いています。これは事務局の方でも学校によってその辺のところは把握していると思いますが、その辺からするとやはりこの教育指針というものはいろいろご意見ありましたが、教育を担当する者にとったら、この位の文章というのが、地域住民あるいは今から教育をする保護者にとっては非常に理解いただける内容ではないかと感じた次第でございます。

(委員長) 保護者やこれから子どもを入学させる立場からというお話でしたが、PTAの内部の方もおりますのでいかがですか。こういう観点から今日出た6ページ7ページに書いてある中身を見ていただいて、何か感じることがあればご発言いただきたいと思います。

(委員) 今お話がありましたが、確かに少ないところと距離的なものとか通学のこととかあると思います。確かにPTAの、親にすればいろいろな考え方の人がいるので、例えば上大津西の話がありましたが、東の方が近かったよといった場合はそっちに行っても別に、今のところ学区というものは無いので、多分そういうのは出てくると思います。実際、実塚小学校の方へも、つくば市の吉瀬の方から来ている子もいます。いろんな事情があるのでしょうが、行政区というものがありますので、市が違ってしまうと難しいところがあります。ちょうど一番外れになってしまっているの、何とか言いようがないというところもあります。

(委員長) 他にいかがでしょうか。

(教育長) 委員の皆さま方、県の指針はここにお持ちでしょうか。

(委員長) 前回の資料になりますね。

(教育長) 前回の資料、大きな2番目の適正配置を進めるにあたっての考え方という県の考え方が書いてありますが、その一番最初の○に「児童生徒の学習環境を充実させるために、複式学級の解消を積極的に図るべきである」ということが述べられております。皆さん複式学級で学んだことはありますか？私はあるんです。小学校3年生まで複式学級で学んでおりました。1年・2年・3年まで同じ教室で勉強しました。もちろん良いところもありますが、一人の先生が45分間で1年生も見る2年生も見る3年生も見るわけです。ですから45分を均等に分ければ、1年生15分、2年生15分、3



年生 15 分、こういう授業なのです。今度、宍塚小学校へ行って見ていただければ分かりますけど。そういう授業と 1 学年同じ先生が 45 分見ると、どちらが良いかは答えはわからないでしょう。ですから、県は複式学級の解消を積極的に図るべきだということを言っているわけです。私はその通りだなと思います。自分の体験からみてそう思います。

それから 2 つ目は、小学校においては全ての学年においてクラス替えができない 1 学年 1 学級の学校について、統合を検討すべきであるという裏には、やはりある程度人間関係が固定化しない方がいいということ。少なくともクラス替えをしたりいろんな子どもと関わり合うような機会があった方がいいのではないかと。というのは、県の応援をするわけではないが私が 40 年間教育をやってきた中で、クラス替えがあった方が私はいいだろうというふうに思うわけです。ここにも学校の先生方が委員さんでたくさんいらっしゃいますので、それはきっと共通事項なのかと思っております。小規模校にはもちろん小規模校のメリット、一人ひとりに行き届く面というメリットはあると思いますが、クラス替えにもいいところはある…ということなど、県の指針の中には参考になる部分はたくさんあるのではないだろうか。と思っております。

(委員長) ありがとうございます。県の考え方のうちの 2 つ、複式学級の解消とクラス替えという点については共通理解できるのではないかと教育長からのご発言でした。

いかがですか、6 ページ 7 ページのあたりに関して、学校の規模と教育環境の関係についてどう考えていけばいいのか、非常に大事な今後の議論の出発点になると思いますので、できるだけご意見を出していただきたいと思っております。

その他、今回は教員の配置についてもいろいろご説明いただきましたが、このことについては何かご質問ございませんでしょうか。

学校の規模が変わるということは、子どもたちの数に従って、先生の数も変わってくるということですので、そのことについても制度をご理解いただくことが大事かと思っておりますがいかがですか。

(委員) 今、委員長がおっしゃいました教職員の配置数ということですが、私たち素人に配置数がどうのこうのっていうのは、ちょっと理解できないことが数についてはあります。

話は戻りますが、先ほど教育長さんが、実際に複式学級の経験をなさったということで、デメリットの部分でちょっとお伺いしたような気がするんですが、やはりメリットは、確かに少ない子どもを相手にするわけですからあれ(理解できる)でしょうけど、デメリットの点をお伺いできたことは非常に良かったと思います。私たちは実際に教職員の立場でやったことがないものですから、素人ですから、分からないのです。実際に子どもたち

にどう教育(すればいいのか)、学校の教育方針というのは、当たり前と言ったらおかしいのですが、もっともなことを言うのです。これはあくまでも国から出てこようと、県から降りてこようと学校教育の指導方針というのは、やっぱりこうあるべきだと私は思うのです。だけど、本当に子どもが少ない学校にいて、どれがメリットかデメリットかということは、実際には分からないわけです。

ですから今、教育長さんが実際に経験したことをおっしゃっていただいたことは、良かったと思うのですが、そういう部分をこの委員会の中で、もしそういう部分がはっきりとメリット・デメリットということが分かる方がいらっしゃったら、おっしゃっていただきたいと思うのです。言っていると思います。はっきりと。ちょっと私には分からないので、その点をお願いしたいと思います。

(教育長) ではメリットも言います。3学年一緒のクラスですと、そこにいる学年は3歳も違うわけですが、みんな兄弟みたいな感じなのです。本当に、3年生は1年生の面倒をみる、2年生は1年生の面倒をみる。そういうのは、そういう方法でないとできない。少ない人数なのだけれど、関わり方は非常に密になる。何をやる時も上の子は下をみるというのは、無言のうちに学ぶのでしょ。そういう部分はそういう方法ならではの部分というふうに思います。ですから、ファミリーみたいなそういう感じ。それは間違いなくあると思います。

(委員) 今、議長の方から提言がありました教諭配置基準、このメリット・デメリットですが、基本的に学校というのは子どもたちの評価も現実に行っているというのは事実だと思うのです。特に中学校においての内申というものに関しては、高校入試に多大な影響を与えるという面も出てくる。今、教育長さんからありましたように、あるいは我々の時代というのは、先生というのは親であり兄貴であり姉である、おばあちゃんでありおじいちゃんであると、今もその通りであることは変わらないかもしれません。時代背景の中で、今、裁判員制度が導入されているような時代になりましたが、やはり学校の先生の人数に限られた少人数という形よりは、より子どもたちの芽を伸ばす、あるいは公平な子どもたちの評価というような、関わりというものを考えた場合、10人中5人6人の先生方よりは、15人20人の先生方との関わり、それと学校の在りようという中での職員会議等々に関しても、少人数よりは、3人寄れば文殊の知恵ではないが、多人数で知恵を出し合った方が学校の運営といった面でも評価される。

今、学校には学校評価制度というものも出ておりますが、やはりそういう面を考えると相対的に、教員の数というようなものも学校適正配置の中では非常に重要な要素になってくるのではないかと、というのが私の感想です。

(委員長) はい、他に何か規模についてのメリット・デメリット、ご自分の体験も踏

まえて、こんなこともあったというのをお願いします。

(委員) 実際に小学校で携わっている者なので、経験の中からなのですが、上大津西小学校の方にも勤務していたことがありますので、今、教育長先生が話されたように大変仲の良い、兄弟のような形で学習が進められるという大変すばらしい面もあります。

縦割り班等の清掃で、各グループで6年生がリーダーとなって活動する、下級生がそれを見習うというような大変良いところもあります。

学習面を見てきますと、11人のクラスですと野球もできないのです。鉄棒等をやっても本当にパラパラとやっている状態です。1年生・2年生、3年生・4年生とかで低・中・高学年のブロックで活動することもあります。それでも教育とかそういう部分については制限が、制約があります。それから心の面ですが、11人とかそういうクラスになると、児童数が結構偏ります。例えば、女の子の話をすると好ましくないかもしれませんが、人数が少ないとどうしても仲間が3人とか4人とかしかいないと、1人が仲間外れになるということが起こりがちで、回復が非常に難しいです。そこから抜け出すことができない訳ですから。これはクラス替えができるメリットだと思います。そこの学校から転校しないとできない訳です。そういうことで転校せざるを得なかったというような話も、本市の場合ではありませんが、よその地区にいたときにお隣の学校で非常に悩んだと、担任も本当に悩んでどうしたらいいかと相当苦しんだという話を伺っております。

メリットというのは、本当に兄弟と同じようになることだと思います。(全校生徒が)70~100人足らずだと、そこの学校で校長をやっておりますと、誰が何で早退したのか欠席したのかということも全部分かります。また、それだけでは済まない、深い心の傷をつけてしまうようなことになる可能性が大いにあるということと、コミュニケーション能力の育成だと言われると大体分かってしまうのです。小学校1年から6年までが一緒ですから。最初に序列が決まってしまうのです。運動で得意な子はこの子、走ると1番はこの子、勉強すると算数ではこの子、国語の本を読んだり何かするとこの子とこの子と。そうするとやっぱり、下位児になると先生が一生懸命励ましたりしても、手も挙げたりするのも少なくなるし、声も小さくなってしまいます。そこを何とか工夫しながら努力するのが現状かなと。そういう教師の立場になると、必死でそういうところを何とかしたいという思いはあるのですが、現状の規模では解決できない部分というのはたくさんあると思います。

県から出された指針というのは、そういうものを踏まえた指針であると私は受け止めさせていただきました。以上です。

(委員長) 他にいかがでしょうか。このことは、とても今後の議論とっても大事なこ

とだと思しますので、まだご発言いただけていない委員の方にもお一言ずつ、今までのお話を聞いての感想でも結構ですので、ご意見・ご感想をいただきたいと思います。(順番に) 委員さんから、今までのお話を含めて、お考えをお聞かせください。

(委員) 今聞いていまして、全くその通りだと思う点がいっぱいありました。少人数の小学校・中学校における、メリットという点では、父兄から見てほしい分かります。また、スポーツ少年団などにも入っていますので、やはり人数がいなくて(競技が)できないというのがデメリットです。学年が1学年だとやっていけないので、2学年・3学年までで試合や遠征に行ったりすると、一生懸命6年生が頑張っているのに、ちょっと可哀そうだなって思うときがあります。先生とかも、子どもたちにとっては、会う先生会う先生いろいろな話を聞きますけど、それでずっと通しちゃうのもどうかかっていう点があります。

(委員) 今、現職の先生方や他の方の意見を聞きながら、やはり良い面・悪い面どっちもあるなと思いました。私が携わってきたことを考えると、体育もそうですが音楽なんかも、1クラスで歌おうとなったとき、合唱の部分や楽器をいろいろみんなで協力して演奏しようとなっても、なかなかそれがまとまらないという部分があります。それから大会やコンクールで、良い成績を取るということではないですけど、せっかく(一生懸命)やっている子がいても人数制限があると、そこに達しないと出られない、という部分があることも事実です。

ですからやはり、ある程度的人数がクラスにいた方がいいのかな、ということだと思います。やはりうちの息子も、野球をやりたいくて…と言いながらも、それだけの人数がいなくて、他の学年や地域の方たちの中に入れていただいたという状況でした。

それから今、自分が関わっていることにおいては、やはりクラスのコミュニケーションというか、先ほどおしゃってましたように孤立してしまうと、学校に通学することがなかなか難しいのが現状です。クラス替えができれば、またちょっと違うのかなというのもあるんですけど。前から見ている子が、3年生のときに問題があったんですが、クラス替えができないということで、6年生になってもやはり学校に登校することはありませんでした。いろんな形で先生方も親身になって頼ってくださってるけど、昔と違ってすごく人間関係が難しいので、とうとう学校に戻ることはできませんでした。それで中学では新しく違うところに通うという結果を招いて、今、その子は通学しています。

やはり、小さいときに人間関係を作るということはとても大事なことで、そういう面をもう少し皆さんで話し合っていきながら、考えていけたらいいなと思います。

(委員) 6ページ、7ページの文章に関して、特にはありません。感想になってしまうんですけど、最初の「土浦市の学校教育の目標について」と四角で囲んであるところの「一人一人を生かす創意と活力に満ちた」というところで、一人一人を生かすということに関しては、私なんかの感じからすると小さい方がいいのかなと思いますし、7ページの④で「ギャップを感じることなく大きな集団に溶け込みやすい環境づくり」といった相反する(ような表現ですが)、でも先ほどから少人数のデメリットを聞いていると、やっぱり大きい学校の方がいいのかなとも思います。とにかくまだそこまで(考えが決まっていらないのですが)、またこれから少しずつ(考えていきたいです)。自分もそういう教育現場にいなかった人間なので、できればそういう経験したこととか、今ある現状をたくさん聞いてみたいなという感じはしました。以上です。

(委員) 2回ほど上西小という形で出てきましたところの者です。委員さんや教育長さんのお話をいろいろ聞かせていただいて、やはり文章的にも、こんなことあるよな…そんなことあるよな…という形で勉強させていただきました。

確かに、言ってらしたような形の、解決できなかったなんていうこと、うちの子のときもあったのかなと思います。先生が3名ほど変わったというのもあります。

今、メリットという形の話聞かせていただいたんですけど、確かにこの規定通り、県や国の形でやれば本当に上手くいくのかなと。ただ、多ければ多いほどまた違う問題も生じてくるのかなと感じております。確かに77人、それが子どもで小学生、77人の友達がいるという感触、まあ多いところで77人の一人の子どもがいるのかなと、友達がいるのかなと思うとまた別なところもあると思いますけど、確かに人数は2クラスで80人いればいいなというのが私の感想です。

ただ地域的な問題もあります。さっき言った上東小など違う学校へ行くという形もあると思うんですが。湖北からもうちの方に来ている人もいます。それが多少なりとも規定がどうなのか私も詳しいところが分からないんですけど、上大津地区にかすみがうら市から来ているところもありますし。確かに人数が多くて。あと4kmとか通学(距離)の問題もあると思うんですけど、詳しいことが私も分からないので。中学校には学区というものがあると思うんですが、小学校はどうなのかなということも、できれば詳しく教えてもらえれば。この学校に行きたいと思ったら行けるのか?距離的に合っていれば強制的に(行かなければいけないのか)。例えば多い学校から4km以内の者は行けるのかな?それができるとなったとしてもまた地域的な(子どもの)数もあると思います。それがどぼっと入ってきたとき、どうなのかな…という問題はありますけど。詳しいことを教えていただ

きたいです。

(委員長) 通学区域について、土浦市の場合、どのような原則があるのか、事務局の方からお願いします。

(事務局) 通学区域につきましては、距離ではなくて学校ごとに地区を定めてございまして、この地区の方はこの学校へというようになっています。

(教育長) 通学区域は、例えば上大津東小学校ですと昔からの経緯もございまして、この町とこの町は上大津東学区、この町とこの町は上大津西学区というふうに、子どもたちのある程度登校する時間とか距離とか、位置的な経緯もありますから、そういうことを含めて、どこの学校も通学区域というのを定めた中で、どの学校に通っていただくということを基本にしています。ただ例外的に、友達がいないから向こうの上東より上西の方に友達が多くいるから私は上西の方に行かせてほしい、といった場合、それなりの条件があれば通学区域外でも通学することができるようなことは保護者と相談の上で行っています。

それから今、全国的な流れとしては、例えば東京の品川区のように通学区域の自由化、つまりどこの学校へ行ってもいいよという流れの中にはございます。

そういう流れも一方ではありますけれども、おおよその市町村では通学区域を定めているとご理解いただければよろしいかと思います。

(委員) 小学生と幼稚園年長(の子ども)がいます。今、「学校規模と教育環境について」ということで、「心豊かに」という点では少ない人数の方がいいのかと思ったりしました。先ほど教育長さんが言われたように、兄弟のように思いやれるということもありますし。

かといって、先ほど先生がおっしゃったように、孤立してしまうんじゃないかという点もあるし。あと、学力的なところとかを考えますと、大規模の方がやっぱり切磋琢磨できるというか、競争ではないんでしょうけど、あの子には負けたくないとか、それは勉強だけではなくて体育や競技においてもそういうことが考えられると思うので、大規模の方がいいのかなという気がします。

私のときも5クラスあり、適正なのかどうかは分からないのですが、私は適正だったと思って小学生・中学生を過ごしてきたので、それが当たり前だと思っていました。上の小学生も土浦第二小学校にいて、今現在4年生なんですけど、4クラスあるのでそれが私は適正だと思っていました。

周りのお母さんたちに聞くと、本来は行かなければならない小学校区だけど、そこは人数が少ないので違う学校に行っているんだ、というお話も実際に聞きます。私はただ単純にその学区だからその学校に行かなくてはいけないと思っていたんですけど、でもそのお母さんは、そこは少ないから嫌だというふうにおっしゃって。でもそれって良いこともあるんじゃない

かなと思ったりもしていました。それで実際に、そのご兄弟は全て違う小学校に入学されているんです。でも結局、中学校はどうするんだろうかと。学区が違えば中学校も違うし…と今(疑問に)思っているところなんですけど。

3年生のときに算数の授業で、先ほどTTの少人数指導加配教員がというところで、TTの先生だと思うんですが、上の娘が3年生のときにクラスは35人くらい、半分に別れて算数の授業を同時進行でやったことがありまして、15~16人の授業をしました。それってすごいことだなとは思って。誰ができる・誰ができないということではなくて、そういう制度ってすごいなと。私たちの頃には無かったなとすごく感じましたし、これで学力がみんな向上すればいいなということも思いました。

この配置制度について、今初めて詳しいことを知ったんですけど、すごい制度だなということを感じていました。なので、まとめられないんですけど、大規模だからとか小規模になったからダメだとか、小規模になっているから絶対良いとか、大規模だからもう絶対ダメだよとか、そういうのは全然分からないので、すごく難しいと思います。

(委員長) 多分、保護者の立場からというのは、学校規模に関わるいろんな現実が見えてくるんです。区域を越えての通学もそうだし、今のそのTTの話も、一定の規模があるとそこにTTの先生が就くから、そういうことも可能になるということです。保護者の立場から見ると、規模に関わって実はいろんな現実があるのであって、ある現実だけを切り出してこうだからいいとなかなか言いづらい…そういう難しい立場にあるということだと理解しました。

(委員) 私は現在、中学校の校長をやっております。今は一中で、その前は二中、その前は五中だったんですけど、前回の議事録を見ましたら、ちょっとそういう部分が出たものですから触れたいと思います。私が(五中)に行って2年目からは、上西小の子を新入生だけ2クラスにまとめた方がいいんじゃないかということで、まとめた経験があります。それはどうも、1年生は入ったとき非常に緊張感があるものですから、そんなことで不登校になっちゃったら可哀そうかな…ということで。現に、不登校になった子がちょっと出たものですから、2年目からはそういうふうにしてやったんです。現在でもそういうふうになっているかと思えます。2年生からはそんなことなく合わせますけど。

また、一中に行ってあれ?と思ったのは、1年生も2年生も3年生も宍塚(小学校)から入ってくる子はみんなバラバラです。1年生が4クラスですから、4つに別れている。去年もスタートは4クラスで途中から5クラスになったわけですから、おそらくそういうふうな感じでみんなバラバラで、クラスで2つに分けていないということで、びっくりしたんです。これは、

その小学校のときの校長を始めとした職員が、分けた方がいいんじゃないか…ということで一中の方に申し入れがあつて分けたんだということです。それで問題はあつたのかといったら全然なかったんですけど。その前はどうかというと、やっぱり2つに分けたそうです。そのときの子ども様子によっても、学校の配慮の仕方が違うのかなと。子どもたちは元気にやっておりますから、それは問題ないなと思っています。

あと、以前に私も指導行政の方の仕事に就いていたことがあるんですが、北茨城の山の中なんですけど、確か水沼小・中学校。現在も廃校にはなっていないと思うんですが、そこでの話をちょっと、その担当の市職員に聞いたことがあるんですが。これ(p10資料2を)見ると分かると思うんですが、そこはおそらく3クラスだと思うんです。中学校3クラスというのは校長・教頭を抜きますと9人の職員がいるわけですが、9人のうちの3人は事務方で、残り6人は「さあ次授業だぞ」と待っているわけです。そうすると、ここの子どもたちはものすごく疲れるそうです。先生が元気だけど、子どもが疲れる。だから指導行政にいた人が「あまり先生方頑張らないでくださいよ、子どもが可哀そうですから」と。じゃあ思い切りいこうかということと授業が目いっぱいハアハアしながらやっている。

だからやっぱり先生の適正規模というのもおそらく、そんなことを言ったら怒られちゃうかもしれませんが…子どもに合わせて非常にラクしている学校もあれば、先生が大変な思いをしている学校もあるんだということをまずご承知ください。

それと、私は単学級の学校にいた経験が全くないんです。小さい学校でも1学年2クラスは必ずありました。2クラスあるからと言っても、以前は1・2年が持ち上がりで担任が変わらず、子どものメンバーも変わらず上がっていく。1・2年、3・4年、5・6年と。これも弊害がある…ということで今だいぶ変えられましたよね。慣れていいたらこうという考えが昔はあつたようですが、子ども同士の仲が良いし先生に対する問題はないのだったらいいけど、1年間やっとなら我慢して、先生に対して「また次の年か…」となると、どっちかということと学校行きたくなくなっちゃうものだ。ですから後になってそういうふうになったと思うんですが、私が最初に教員になったときの学年が小学校3年、次4年、次5年、次6年…2クラスしかなくて4年から5年に上がる時だけクラスを解体して、当時45人学級ですから88名のうちの半分44名は4年間担任したんです。すると、良いところを見てくれればいいんですが、早口だったり訛ったりするのばかり、字の汚さとか、人の怒り方までしっかり学んじやう。

ですから私とすれば、いろんなことが出たと思うんですが、なるべく多くの仲間とともに自分が居られるというのは、私個人としては賛成です。少ない人数できめ細かい(教育を)というのものもあるかも知れないけど、社会に



出ればまたは中学校へ行けば必ず大集団の中に入って行くわけですから、それだったならば早いうちから(大集団の中へ)という考え方の方がむしろいいんじゃないかな。ですから文科省とか県での適正規模だとか出てきたと思うのですが、これが適正かどうかは人によって感覚的に違うと思いますが、やっぱりこの辺は妥当な線かなと私は思っています。以上です。

(委員) 今、地域の話の中に入っている上大津東小学校でお世話になった者です。私の時代は分校がありまして、今の菅谷小ですね、1～3年生までの菅谷の方が分校で、私たち上大津東小学校を本校と言っていました。夜、電気もなく本当に真っ暗な山を越えて、4年生になると本校へ行くんです。運動会のときは、分校の先生が生徒を連れて、本校で運動会をやっていました。そして上大津東・西・菅谷が一緒になって、五中になっています。今話題になっている地域的なものが、だいぶ影響しているかなと思います。やはり住民が少なくなれば、子どもも少なくなるというのがあります。学校時代を思い出しますと、先生方は一生懸命私たちに勉強と生活習慣というようなものを指導してくれた覚えがあります。4年生の女の先生が、子どもたちで教室のお掃除をしたときに、「お掃除ができて終わりました」と先生に伝え、確認をしていただく時間がありました。そのお掃除をしていたときに、担任の先生が来てくださって、私のほうきの使い方がとても上手だと褒めてくださったんです。隅々の掃き方がとても上手で、「お家でもやってるの？」と声を掛けてくれて、すごく褒めてくれたことが今でも印象に残っています。そういうふうな、一人ひとりに関わる時間というものが多かったのかなと感じています。

それと、ちょっと語弊があるかも知れませんが、私の時代でも、五中から土浦に向かった受験に行くときに、五中ではちょっと…というような思いをもった保護者がおりました。それで一中に行った方もいらっしゃいます。そういうことを子どもながらも耳にしたり、そのときの学年の先生方も多分いろいろな思いがあったのかなと…今記憶に留めますと。それで「みんな頑張れ!」「勉強を一生懸命やれ!」と励ましてくれました。そして、授業中に「昨夜は何時から勉強を始めた?」と聞いて、8時ですと言うと「遅い!」と叱られて、みんなで頑張ってきたんです。やはり、先生たちが一生懸命やっていると、田舎の学校でも子どもたちがその思いに一生懸命ついていく気持ちの強さというものがあったのかなと思います。

今、コミュニケーションの取り方・コミュニケーション力が欠落している中で、このいろいろな議題に入っていますが、その生きる力・子ども一人ひとりの心の強さというものが、育ちというものが、大事なのかと思います。そういうふうなことも含めて、今この議題が話し合われているのかと思います。

昔を聞いていて自分の育ちを思い起こしましたが、友達同士でケンカして、

門前で怒鳴り合って別れても次の日は一緒に「おはよう」って学校で言ったものです。近所の人を通っても家族からは「こんにちは」と挨拶をするんだと教えてもらいました。村の中で会った人には「こんにちは」って言うんだぞと母親には言われました。そういうふうな時代だったなと今思い、時代の流れというものを感じ取ったり、そのときの思いに感謝をしたりという気持ちでお聞きしていました。今の子どもたちが育っていくのには何が必要か？というような。昔の話をしても景気と流行がありますが、昔から大事なものというものは残っていくのではないかと思います。今の子どもたちの生きる力というものを考えますと、いろいろなもので議論をしていく必要があるのかと思っております。私事の話をしてしまい、すみません。

(委員長) 一通りご発言いただきました。適正な規模ということについて、客観的な指標というものが無いものですから、やはり皆さんの体験や考えを出し合いながら、多面的に、適正な規模というか学校の規模と教育の在り方について、考えていかなければいけないと思います。そういう意味では、皆さんからご意見を出していただいて、とても良かったと思います。今日出されたさまざまな意見は、当然議事録に残って、その上にもまた残ります。今後の議論でそれを踏まえて発展させていくことになると思います。また、事務局の方でまとめをよろしくお願いします。

それではこの議題につきましては、今後の検討の材料になるご意見を出していただいたということで、次の協議事項(3)に移りたいと思います。幼稚園の適正配置等についてということで、事務局の方からご説明をお願いします。

(事務局) 幼稚園の適正配置等について資料を用いて説明

(委員長) ありがとうございます。今ご説明いただいたことについて、何かご意見・ご質問はありますか？

(委員) 11 ページの2番目の○の市立幼稚園の在園時状況についてということで、「新治幼稚園を除いて」とありますが…何か新治幼稚園の出来が悪いような感じにとられる方もいらっしゃるかもしれませんが、状況を私の方からちょっとご説明しますと、こういうふうに掲げているのは、幼稚園がある位置というのが沢辺地名にあって、山ノ荘地区なんです。ところが山ノ荘は、『さん・あぴお』の中心地からも離れていて、どちらかというと文教区、これはもう藤沢小学校のエリアなんです。それとの端境のところに位置してるので、そういった面では確かに地名で言えば沢辺地名なので山ノ荘小学校区になります。ですが、状況としてみれば、藤沢小と山ノ荘小を併せ持った辺りであると捉えてもらった方が適切かと思えます。それと、新治の場合には、バスで広域から子どもたちを連れてくるといったことで、対応していますので、その辺りも含めまして、このように書くと少し出来

が悪く感じますが、状況としてそういうことですので、少しご理解をいただければと思います。

- (委員長) もともと、小学校区の子どもの数などにも違いがありそうですもんね。ではそういう事情もご理解いただきたいと思います。他にございましたら。
- (委員) すみません、幼稚園のことですので少しご理解をいただきたいことがあります。今、事務局さんから今年度の入園予定ということで、17ページにございますけど、実は、幼稚園の入園案内にしまして、NPO法人『ペンギンクラブ』というものが水戸にございまして、毎年9月の第1週に教育委員さんの協賛という形で、大岩田の体育館を借りまして、公立幼稚園と我々私立幼稚園の参加を得まして幼稚園の入園説明会を行っているんですけど、ここ3年私も立ち会っております。ペンギンクラブの発表だと、毎年だいたい初年度が400人くらい、今年度は600人くらいが集まったということなんですけど、各お父さんお母さん非常に真剣です。各幼稚園の説明を受けるのに真剣な眼差し・姿勢でございます。というのは、先程も教える側にはニーズというものがあるとお話ししましたけれども、やはり私共の地域においては、教育に希望する父兄としてニーズがある程度通るのが幼稚園の時代と。それから、高校に入ってから大学と…義務教育というのはどうしても小学校・中学校、先程「学校区」というのが出ましたけれども、自ずと私立が少ないし、その地域の中で決められた公立に向かわざるを得ない。ところが幼稚園と高校というのは当然、親のニーズ・子どものニーズという形の中で選ぶことができる。そういうことがあって、NPO法人のそれなりの宣伝をする席というものがあるんですけども、毎年盛大な説明会が行われております。
- 前回もお話ししましたが、そのような中で、公立幼稚園の園児数が350名程度。それで市内の私立で学ぶ幼稚園生は2400名弱。ということなんですけど、違いはご覧になっていただいて表でお分かりだと思いますが、公立幼稚園さんは2年保育からで、さらに1年保育も受け付けます…という形になっているんですけど、私立幼稚園の方は3年保育から入園受付をしているという状況。この辺のところの違いかと思います。
- それからもう一つが、最近の「認定子ども園」というものが、行政の方では幼児教育あるいは保育業者への推進事項になっているんですけども。やはり地域の子育て支援ということで、私立の場合は保育園的な要素が非常に高まってきている。
- それともう一つは特色のある教育・保育内容というようなもの。やはり私立ですから、園独自の勉学精神の中で取り入れることができるということが、父兄のニーズにマッチングしている。
- それから、私が実際に幼稚園に通い始めたときは、幼稚園というのはお母さん・お父さん・保護者と道すがら幼稚園まで自然の中を散策しながら通

う…というのが理想だったんですけど、最近の子どもたちというのは、幼稚園生になると制服を着て園バスに乗る…この楽しみが子どもたちにはあるようだ。3歳の自分が顔を出す初めなんでしょうけど。バスを選ぶ…。だから実際のところ、私の幼稚園は真鍋小学校の二中地区のところであって、近いからいいだろう？って言うんですけど、1歳・2歳・ヨチヨチ歩きから幼稚園に遊びに来ているんですが、入るときになると子どもがやはり「バスに乗りたい」ということで、他の幼稚園地域に(行ってしまう)。子どもの希望だからということで、(そこで)学ばせる父兄も出てきている。そんな形で、茨城県内全体では幼稚園生で私立に入園させている比率が7割。土浦市内ではほんの1割強というのが公立なんです。その辺は運営の問題。その運営に関して父兄のニーズが私立の方が高いということではないのかなと。

ただ、幼稚園には学級数等々の適正がないということは今事務局の方からお話しありましたけれども、幼稚園であっても最初の集団生活に馴染ませる遊びの中で、それなりに子どもの発育を願う場合には、発表会にしても運動会にしても、私立の場合には月々の園外保育等、行事をして子どもたちの発育の姿を見ていただくという期間が多分にあるので、ある程度の同学年希望の人数を、まず最初の集団生活の中で重要視している要素にはなっている、ということをご理解いただけるとありがたい。その辺のところでございます。

(委員) 先日も園長会をやりました。土浦市には公立幼稚園が6園あります、先ほどお話がありましたけど、新治と合併になって6園になりました。やはり、その6園の存続というのを希望している、ということが話の根底にはありました。

それでまず、委員さんのお話にもありましたけれども、今は保護者のニーズというものがいろいろな面で違った内容になっております。その保護者のニーズに応えられるよう公立幼稚園も選択肢を取り入れて、幼児教育の充実を図っていきたい、といった意見があります。

今日は、この時期ですけども小春日和でとても暖かい日でした。その中で、園児たちが伸び伸びと戸外遊びを楽しんで、お昼には遠足気分になりまして、園庭で昼食を食べました。そういう子どもたちの姿を、今日を通しましても、今の時代の流れはありますが、考え方の原点としては、この子どもたちのためには何が一番大切なのか、そのためにはどうしたらいいのか、というようなことを基本として考えていかななくてはならないと思います。委員さんのお話にもありましたけれども、家庭から集団生活に第一歩を踏み出すというのが幼稚園生活になると思います。その中で、私の昔話もしましたけれども、人間関係・コミュニケーション、それから「生きる力」の中のたくましさ、そういうものを体験しながら子どもたちが培っていく

のではないかなと思います。

やはり、保護者のニーズに応えられる選択肢というのを取り入れて、幼児教育の充実を図っていく。それと、何が一番大事かというものを考えながら、幼稚園の将来を考えていきたいという話をしてきましたので、お話しいたします。以上です。

(委員長) 他に何かこの話題についてご意見ございませんでしょうか？

(委員) 幼稚園生をもっている母親の立場から言わせていただきますが、やはり、親のニーズはすごいと思います。私も実際に悩みました。公立幼稚園に入れるのか？私立幼稚園に入れるのか？3年(保育)にするのか？2年(保育)にするのか？…あとは金額的な問題ですが。(結果的に)私が公立幼稚園にした理由としましては、一番近くて学校にも近い。それが一番でした。園バスに乗れる…とか、そういう思いもいろいろなお母様方がいらっしゃると思いますので、多分あると思います。あと制服、女の子だから可愛い制服を着せたい…という思いもきっとあると思います。

でも、幼稚園時代は今のもでもいいのかと私は思っています。公立幼稚園に入れたから云々…という思いは全然ありません。私立に入れなかったから、しまったな…という思いもありません。小学校に入れば、スタートラインはみんな一緒だと思っています。そこで今、お話し合いをしているこの問題が出てくるのだと思うので、この適正配置の規模についての検討はしなくていいと、私もそれで良いと思っています。

ただ、先ほどもありましたけど、小学校の近くがいいんですが、遠いところから通うことが不可能な地域は、じゃあどうするんだろう？とか、公立幼稚園に入れたくても近くに無いので(どうすればいいのか?)。そう思ってらっしゃる方は逆にいらっしゃるんじゃないかな。本当は公立幼稚園に入りたいのに、近くに無くて、それで送り迎えになってしまう。そういう点では逆にどうなのかと思ったりしますし、3年保育で入りたいのに、公立幼稚園は2年だから…その辺の部分はずごくあると思います。

幼稚園の方は、私自身の個人的な意見としては、このままで全然構わないと思いますが、小学校の方はこれからの問題であると思っています。

(委員長) 多分、保護者の潜在的なニーズとして、距離のことですね。近くの幼稚園に入れさせたいというニーズもあるから、そう考えると公立幼稚園が近くにあるということの大事さだ、ということだと思います。他にいかがでしょうか？

(委員) 幼稚園の配置につきましては、基本的には隣接幼稚園の2km圏という新設基準はあるんです。ですから、私立の方は始終、過去の休園された幼稚園であるとか、特殊な設置協議会での認可等々ありまして、必ずしも2kmという形でなくて、隣接している状況もあるんですけど、そういう適正配置というような形から考えますと、土浦市内のいくぶん幼稚園と土浦幼稚園

が直線距離にして1 kmにも満たないという状況で、本当の隣接幼稚園という形じゃないかなと思います。

それとやはり第二幼稚園。あくまで土浦市内ということであるわけですけど。本当に行政として、前回いわゆる行政の予算負担というようなことを、私が事務局に質問した事項なんですけど、幼稚園・保育園というのはどちらかと言えば市町村の負担分、教育費負担分というもののウエートが非常に高いんじゃないかなと思うんです。そういう面で、過去は、土浦の街の中に。第二小学校には第二幼稚園、土浦小学校には土浦幼稚園。土浦の将来、人口増という形を捉えて、先ほどの宍塚小あるいは西真鍋・真鍋地区等々ひっくるめて、いくぶん幼稚園というものの新設につながったんじゃないかなと推測するところなんですけど、意外な面で土浦市内の人口はいくぶん幼稚園を創った頃がピークで、計算通りにはいかなかったということ。

現時点も土浦旧市内、徒歩でそれなりに通園・通学できるような対象人数が非常に限られている。では、こういうものを運営していったら、街の住人を子育て支援に何となく不安を与えるのかなということ考えた場合に、そうでもないんじゃないかなと思います。

ですから、1 幼稚園と1 小学校というような状況であれば、私はどちらかと言えば土浦幼稚園といくぶん幼稚園がちょうど人数的にも80~100人弱規模になりますし、非常に教育環境等々を捉えましても、規模的にも適正な規模の幼稚園になるのかなと、そんな気がしているというのも私の意見として申し述べておきたいと思います。

(委員長) 今お話しに出ました2 kmというのは…事務局にお訪ねした方がいいのでしょうか、行政的な何か基準みたいなものが決まっているのですか？

(教育長) 委員さんのお話を今聞いていて、初めて2 km圏というのを知ったんですけど、詳しく調べさせてください。

(委員) 設置協議会で行ってたと思うんですけど…2 km圏というのは多分、一つの認可基準の中に出ていたと思います。

(教育長) そうですか。ちょっと確認をさせていただき、次回に報告をさせていただきます。

(委員長) では次回報告をお願いします。その他この議題につきましてご意見・ご質問ございませんでしょうか？

それでは、この議題につきましては、今回具体的なデータを出していただいて、それについて意見交換で委員の皆さん方からご意見を出していただいたということで、今後の意見の取りまとめの材料にさせていただきたいと思います。

それでは協議事項の(4)学校視察について事務局の方からお願いします。

(事務局) 次回委員会の学校視察について日程等説明

(事務局) 学校視察について補足説明

(委員長) あまりない機会ですので、一日大変ですけれどもぜひご参加いただければと思います。それでは協議事項は以上で終わります。その他として事務局から何かございますか？

(事務局) 学校視察結果の報告および第4回検討委員会の日程について

(事務局) 閉会のことば

—互礼—

—15時40分終了—